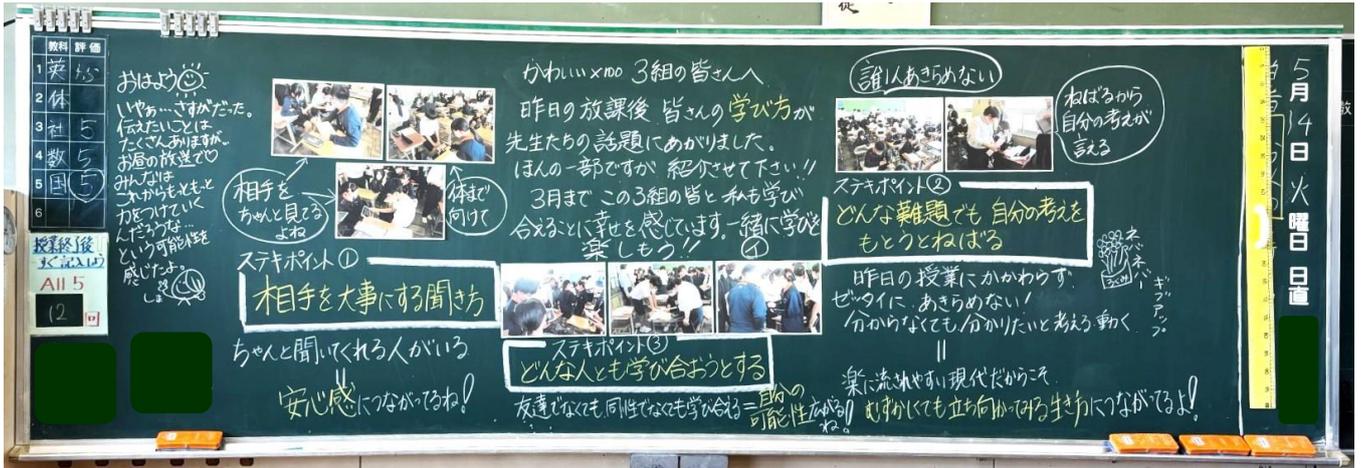


[2024.5.15] 第3話 「心がほっこりする黒板」



今日の始業前の3年3組の黒板です。

昨日、研究授業を行った教務主任が、昨夜のうちに書いたものです。朝の活動時に教室を巡回した時に見つけ、心がほっこりしました。

私たち教師が一番力を入れて取り組まなければならないことは質の高い授業を生徒に提供することです。教師の仕事の根幹をなすことです。

どの世界でも同じだと思いますが一朝一夕に一流の仕事ができるわけではありません。ですから、私たち教師は様々な機会を設けて授業の質を高める研修に取り組んでいます。

昨日、3年3組で行った研究授業もその一つです。今回は教務主任が国語の授業を提案しました。その授業をすべての職員で参観し、その後、テーマに沿って議論をしました。最終的には、市教育委員会の指導者にご指導をいただき成果をまとめます。この研究会の様子については、後日別の機会でもたお話しします。

さて、授業は教師が生徒に提供するものですが授業の質を担保するのは、そこで学ぶ生徒の姿が大きく影響します。私も参観しましたが、なかなか課題（授業で身に付けたいこと）の難しい授業でした。その課題に粘り強く個人で、そして仲間と挑む姿に頼もしさを感じました。

冒頭の黒板のコメントは、授業者である教務主任がなんとでも3年3組の生徒に伝えたかったからの行為だと思います。「3月まで、この3組で私も学び合えることに幸せを感じています」このコメントと板書の内容に、同じ教員として、心がほっこりしました。